

令和 2 年 6 月 19 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03070

研究課題名（和文）近世中国の「科挙」と「官僚制」に関する史料と西洋知識人の情報源に関する研究

研究課題名（英文）A Study on Historical Materials on Bureaucracy and Civil Service Examination System in Imperial China and their Information Sources of Western Intellectuals

研究代表者

大野 晃嗣 (Ono, Koji)

東北大学・文学研究科・教授

研究者番号：50396412

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、主にイタリア、オランダ、ポーランド諸国における近世中国王朝の漢籍、文物の所蔵状況の調査を行った。またその結果と対比的に考察するために、日本国内に所蔵される明朝の公文書・文物を調査し、その由来と利用のされ方について考察した。そしてそれらを総合する意味で、近世ヨーロッパの知識人は、近世中国王朝の官僚制や科挙制度に対する知識を、漢字の読解（文面の理解）だけでなく、視覚的なものから得ていたのではないかという見通しを持ち、次の研究への足がかりとすることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来、ヨーロッパに所蔵される漢籍や近世中国王朝の文物は、文化史的、美術史的な側面から多くの優れた研究がなされてきた。本研究は、それに加えて、近世のヨーロッパ知識人達が明清中国の国家体制を高く評価する時、その拠り所は宣教師の報告以外にどのようなものであったのかについて具体的に考察した。更に、ヨーロッパ以上に、明清王朝の影響を受けた日本において、国家発給物としての明清王朝の公文書がどのような利用のされ方をしたのかを、中国官僚制研究の知識に基づいて正確に論じることによって、対比的に見る土台を得ることができたことは、学術的な意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, we investigated the collection of Chinese books and artifacts of the Imperial China, mainly in Italy, the Netherlands and Poland. In addition, in order to examine it in contrast, we investigated the Ming Dynasty's official documents and artifacts in Japan, and considered their origin and usage. And from these conclusions, it seems that intellectuals of early modern Europe might have acquired knowledge about the bureaucracy and the Civil Service Examination System of Premodern Chinese dynasty not only from reading the text, but also from visual things, It could be used as a stepping stone to the next study.

研究分野：人文学

キーワード：官僚制 明清中国 科挙制度 公文書

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

近世中国の社会が、万人に開かれた官吏登用試験「科擧」と膨大な人員を体系的に序列化した「官僚機構」を有し、世界史上稀に見る長期的な安定を果たしたことは、彼我の学界に共通の認識である。

2007年以降、中国寧波の天一閣が所蔵する明代科擧の合格者名簿が公開されたことを嚆矢に、中国の多数の所蔵機関が堰を切ったように「科擧」関係史料の出版公開を行った。この一次史料の充実によって、上記近世中国社会における「科擧」及び「官僚制」への分析は、それまでの多くの先行研究の蓄積と相まって、更に高い水準で可能となり、今や「科擧学」と呼称される一分野として研究者を集めるに至っている。しかしながら、「科擧」と「官僚制」に関する一次史料は、中国と長い交流の歴史を持つヨーロッパにも多く残されている。

そのような中、2013年から2014年にかけて、オランダのライデン大学において史料調査を行う機会に恵まれた。この書庫を調査中に、普通書庫の中から『道光甲辰(二四年、1844)恩科 順天鄉試シュ【石+朱】巻』という清代の科擧関係史料を発見した。これは、清末の対外事務に大きな役割果たした崇厚(1826 - 1893)が、19才で郷試(省の代表を決定する科擧試験)を受験し、補欠合格であった時に作成されたものであり、個人履歴から先祖、親族の名前、更には先生の名前まで記されていた。無論、従来から同様の「シュ【石+朱】巻」の存在は知られており、現物も上海図書館を中心に多く保管されている。ただし、このライデン大学所蔵「シュ【石+朱】巻」は、全く同じ物が29冊もまとまって一カ所にあるという著しい特徴を備えている。また、通説ではこの「シュ【石+朱】巻」とは、親類縁者への贈り物として(謂わば合簞記念として)送る慣習上のものとされている。従って、ライデン大学に所蔵されるに至った経緯を把握すれば、「シュ【石+朱】巻」についての定説が実効なり甘いこと、つまり長い歴史の中で醸成されてきた「科擧慣習」ともいうべきものには、まだまだ未解明の部分があることを明らかにできる。

また同時に、視野を広げて「科擧」と「官僚制」に関する一次史料が西洋知識人の中国情報源として果たした役割について、深く踏み込めることを示唆するように思われた。例えば、近世から近代の西洋の知識人達が「後期帝政中国」についてどのように情報を仕入れ、またどのようなイメージを持っていたかについては極めて多くの優れた先行研究がある。その中でGeorg Lehnerによる*China in European Encyclopaedias, 1700-1850*(2011年)は、多数の「百科全書」に見える中国関係の記事を系統だって整理した集大成的な著作である。しかし一読して、「百科全書」内の近世中国の「科擧」と「官僚制」についての記述が、イエズス会士の報告書を越えた詳細さを持つと同時に、版を重ね、また新作される毎に次第に詳細になっていくことに引っかかりを感じていた。それは必ず一次史料に立脚しているに違いないが、それがどのような史料であったかは、「科擧」や「官僚制」について直接研究をしていなければ判断が難しい。従って同研究書はこの点について論及していない。そのような中、上記ライデン大学での発見があった。

## 2. 研究の目的

- (1) オランダ、イタリア、ドイツが所蔵する近世中国の「科擧」と「官僚制」に関する一次史料について調査を行い、その所蔵されるにいたった経緯と史料学的価値について考察を行う。
- (2) その結果を土台に、「科擧」と「官僚制」に関する一次史料が西洋知識人の中国情報源として果たした役割について考察する。具体的には、近世から近代の西洋の知識人達が「後期帝政中国」についてどのように情報を仕入れ、またどのようなイメージを持っていたかを、「官僚制」「科擧制度」をキーワードに分析する。
- (3) 近世中国の「科擧」と「官僚制」が世界史上に与えた影響について考察する。

## 3. 研究の方法

申請段階で考え、その後遂行した方法をまず列記する(1,2)。加えて、研究遂行の途中で新たに有効と判断した方法(3)があるので、それを後記する。

- (1) 所属する東北大学附属図書館を皮切りに、東洋文庫、国立国会図書館など日本各地の所蔵機関が所有しているヨーロッパの漢籍所蔵機関の目録を収集整理し、その中から近世中国の科擧と官僚制に關係すると推測される漢籍と一次史料についてリストアップしデータベース化する。また、ライデン大学の貴重漢籍の目録である *koos Kuiper, Catalogue of Chinese and Sino-Western manuscripts in the central library of Leiden University* (2005年)のような日本国内に所蔵されていない目録も入手につとめる。

- (2) ローマ大学、ベネチア大学(イタリア)、ハイデルベルグ大学(ドイツ)、ライデン大学(オランダ)といったヨーロッパの重要な所蔵機関へ赴き、漢籍を含む一次史料の実地調査を行う。
- (3) 明清王朝が発給した日本に所蔵される一次史料(特に公文書)を調査し、それが当時において果たした役割を正確に分析する。このことを通して、近世ヨーロッパの知識人の近世中国王朝の静観に対する受容方式・態度と比較する土台を構築する。

#### 4. 研究成果

(1) 研究期間を通じて訪問し、ローマ大学(イタリア)、ベネチア大学(イタリア)、マルチャーナ図書館(イタリア)、ポローニャ大学(イタリア)、ライデン大学(オランダ)、ゲント大学(ベルギー)、ヤギェウォ大学(ポーランド)、ビリニス大学(リトアニア)等に赴いた。そして、例えば、ローマ大学においては、イタリア東洋研究学科の Luca Milasi、Davor Antonucci 両先生の協力の下、Lodovico Nocentini(1849-1910)、Giuliano Bertuccioli(1923-2001)二人の高名な東洋学研究者の蔵書を読覧、調査し、その過程で、同大学の東洋研究学科の中でも知られていなかった、蔵書目録を発見することができた。また、国立マルチャーナ図書館においては、最も古い蔵書目録の閲覧を中国書籍担当の Orfea Granzotto 先生から許可され、その上で希望した漢籍、古文書などを実見し、更には所蔵に至った歴史的経緯及び所蔵状況の概略を教示していただく機会に恵まれた。その結果として、16世紀東アジアの国際状況、特に明朝と日本、及び東南アジアに関する極めて重要な一次史料(文書)を発見することができた。

(2) 国内においても史料調査を重ねた。特に、中世から近世にかけて日本の対外窓口として大きな役割を果たした対馬の実地調査、ならびに長崎平戸藩に所蔵されている中国及び西洋関係の公文書とその目録『楽歳堂蔵書目録』を調査(於松浦史料博物館及び京都大学附属図書館)し、当時の日本における中国の官僚制度に対する認識方法と知識の偏りについて、具体的に知ることができた。対馬藩藩校維新館の監学クラスの学識者がこの『楽歳堂蔵書目録』編纂に参加しており、『大明會典』を蔵していたにも関わらず、極めて初歩的な明朝文書行政に関する誤解が見られることは、蔵書の有無は、記載される知識への接触が可能であったということを示すに止まり、知識として実際に修得していたかということとは全く異なるという、ある意味で当然のことを明らかにできた。このことは、翻って西洋における宣教師経由の報告に基づく知識や輸入書籍による理解の水準を相対的かつ公平に判断する上で、一つの考察基盤とすることができた。

(3) 大きな研究の進展は、ヨーロッパにおける所蔵漢籍を調査し、その意義の大きさを考えると同時に、並行して「文物・公文書」の存在を確認し、その視覚的意義も理解する必要があると考えるようになったことである。これは海外において、調査の結果を発表する際に、美術史や哲学などをふくむ多くの分野の研究者からのアドバイスを得たことが大きい。非漢字文化圏の地域においては、漢籍を直接読解することは一部の専門家を除けば困難であったことはすでに知られているが、相対的に深いヨーロッパ知識人達の中国認識の背景に、出版された漢籍やイエズス会士の報告書といった所謂「読み物」からの知識だけでなく、例えば、中国王朝から直接発給された「勅書」「筭付」といった公文書類、「官服」「冠帯」「補子」「印璽」「名刺」といったモノ(文物・公文書)からの視覚的、体得的な影響があると考えるのは、ある意味で自然である。しかしこのようなモノ(文物・公文書)は、これまで特に文化史家や美術史家などにこそ着目されてはいたものの、ヨーロッパ知識人の近世中国王朝の認識に繋がる材料としての観点からは、まだまだ少数の基礎研究があるのみで、特に「絵画」を別にすれば、ほぼ体系立って存在しないと見てよい。例えば、ライデン大学において、オランダの訪清使節が乾隆帝から得た勅書と清朝官僚から受領した複数の名刺を発見したが、これらの意義は、もっと深く歴史学的な手法を用いて分析する必要がある。

そこで、まず近世中国国家の公文書などが最も影響力を持った近世日本を一つの事例として、上杉神社(山形県米沢市)に残る、明朝が豊臣秀吉の家臣に送った「筭付」を材料に、これが日本に与えた影響を論文化した。そこで明らかにした、近世中国王朝から発給された公文書の改作やそれを自己の権力の一つのよりどころとする発想は、それをアジア的なものと見なししてよいかどうかを含めて、今後の研究の一つの基礎となるものと考えている。そして、上記の視点と成果を更に発展させるべく、新たに科研費を得た。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大野晃嗣	4. 巻 78
2. 論文標題 明朝と豊臣政権交渉の一齣 - 明朝兵部発給「箭付」が語るもの -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東洋史研究	6. 最初と最後の頁 129-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大野晃嗣	4. 巻 -
2. 論文標題 一場明朝与豊臣政権間の交渉	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第七届中国古文書学国際学術研究会論文集	6. 最初と最後の頁 438-450
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件）

1. 発表者名 大野晃嗣
2. 発表標題 日本現存明朝公文書に関する研究 「箭付」を中心に
3. 学会等名 第8回日本学国際研究クラスター
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Ono Koji
2. 発表標題 Counting Claws: The Evolving Image of Early Modern Chinese Dragons in Clothing, Porcelain, and Festival
3. 学会等名 Images Philosophy Communication (Hasekura League Symposium) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ono Koji
2. 発表標題 The design of dragons and its spread in early modern China: Clothing, porcelain, and the Gion Festival
3. 学会等名 HeKKSaGOn Working Group Three (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大野晃嗣
2. 発表標題 日本現存明朝兵部發給「筭付」について 現状と課題
3. 学会等名 明服筭付研究会 (第二回)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大野晃嗣
2. 発表標題 一場明朝と豊臣政権間の交渉－從明朝兵部所發行的「筭付」説起
3. 学会等名 第七届中国古文書学国際學術研討会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大野晃嗣
2. 発表標題 明朝と豊臣政権交渉の一コマ - 明朝兵部發給「筭付」が語るもの -
3. 学会等名 明服筭付研究会 (第一回)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大野晃嗣
2. 発表標題 「清朝による明朝の官僚制度・人事制度継承の性格について」
3. 学会等名 「東北アジア諸地域における清朝統治の歴史的意味に関する比較研究」第1回研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大野晃嗣
2. 発表標題 「所謂「明国笥付」について 明朝と豊臣政権交流の一コマ」
3. 学会等名 浙江大学歴史系講座（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大野晃嗣
2. 発表標題 「橋本雄「徳川美術館 所蔵『成祖永楽帝勅書』の基礎的考察」に対するコメント」
3. 学会等名 第10回研究会『国書がむすぶ外交 近世アジア海域の現場（視点）から』
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 大野晃嗣
2. 発表標題 「上杉景勝宛明国笥付」に関する一考察
3. 学会等名 「東京大学史料編纂所所蔵東アジア関係古文書資料の調査・研究」公開研究会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Christopher Craig, Enrico Fongaro and Akihiro Ozaki	4. 発行年 2017年
2. 出版社 MIMESIS INTERNATINAL	5. 総ページ数 326
3. 書名 How to Learn?: Nippon/Japan As Object, Nippon/Japan As Method(MIMESIS INTERNATINAL)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----